

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月12日
【四半期会計期間】	第53期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)
【会社名】	株式会社創健社
【英訳名】	Sokensha Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 中 村 靖
【本店の所在の場所】	横浜市神奈川区片倉二丁目37番11号
【電話番号】	045(491)1441(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 飯 田 雅 之
【最寄りの連絡場所】	横浜市神奈川区片倉二丁目37番11号
【電話番号】	045(491)1441(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 飯 田 雅 之
【縦覧に供する場所】	株式会社創健社横浜支店 (横浜市神奈川区片倉二丁目37番8号S Kビル) 株式会社創健社大阪支店 (大阪市淀川区西中島三丁目14番27号新大阪南方ビル2階) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 上記の横浜支店は、金融商品取引法に規定する縦覧場所ではありませんが、投資家の便宜を考慮して、縦覧に供する場所としております。

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第52期 第3四半期連結 累計期間	第53期 第3四半期連結 累計期間	第52期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年12月31日	自2019年4月1日 至2019年12月31日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (千円)	3,450,397	3,412,825	4,543,912
経常利益 (千円)	28,492	12,728	26,221
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	20,329	9,943	15,017
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	7,943	11,838	3,071
純資産額 (千円)	1,005,442	1,005,411	1,000,570
総資産額 (千円)	3,169,939	3,013,471	2,894,022
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	29.05	14.21	21.46
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	31.7	33.4	34.6
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	19,493	13,722	31,433
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	27,424	27,976	42,294
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	39,990	85,615	10,972
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	1,130,981	971,717	1,099,032

回次	第52期 第3四半期連結 会計期間	第53期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2018年10月1日 至2018年12月31日	自2019年10月1日 至2019年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	62.45	39.20

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間（2019年4月1日～2019年12月31日）におけるわが国経済は、政府・日銀による継続的な経済対策や金融政策の効果から企業収益や雇用環境が改善し、緩やかな回復がみられる一方、米中の貿易摩擦に加え日韓関係の悪化など、景気の先行きは依然として不透明な状況のまま推移しております。

当社グループを取り巻く食品業界におきましては、食の安全や食に健康を求める消費者意識が高まる一方、消費税引き上げによる消費マインドの停滞、天候不順や相次ぐ自然災害による原材料の高騰、人手不足を背景とする物流費の上昇などにより、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような経営環境の下、当社グループは、これまでの経験を基により改善に努め、「食」が持つ大切さを訴えるという創業以来の企業使命を果たすため、第4次中期経営計画『新たなマーケットの開拓』（2017年4月1日から2020年3月31日まで）を作成しました。その最終年度となります当連結会計年度におきましては、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて国内の食の安全と、オーガニック市場への関心について大手食品企業を含めた競争がさらに高まる中、当社グループブランド商品のファン作りに注力するとともに、目標の営業利益額を達成するために役員・社員一丸となって取り組んでまいりました。また、これまでに蓄積した多くのデータをさらに詳細に分析を行い、今後当社グループブランドの市場拡大を図るために営業力・商品力をより一層強化してまいります。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの商品品目別売上高の主な増減につきましては、「油脂・乳製品」が、マーガリン等の売上減があったものの、えごま油等の売上増により前年同四半期比29百万円増（6.1%増）の5億17百万円となりました。しかしながら、「調味料」が、マヨネーズ等の売上増があったものの、液体だし等の売上減により前年同四半期比24百万円減（2.3%減）の10億55百万円、「乾物・雑穀」が、タピオカ粉末等の売上増があったものの、有機国内産小麦粉等の原料不足による売上減により前年同四半期比15百万円減（6.4%減）の2億26百万円、「嗜好品・飲料」が、メイシーシリーズ（お菓子）等の売上増があったものの、ナッツ類等の売上減により前年同四半期比10百万円減（1.7%減）の5億93百万円、「その他」が、洗濯用品等の売上増があったものの、ひざ掛け毛布等の売上減により前年同四半期比7百万円減（7.6%減）の91百万円、「栄養補助食品」が、くま笹エキス等の売上増があったものの、ルイボス茶等の売上減により前年同四半期比4百万円減（3.6%減）の1億31百万円、「副食品」が、有機トマト缶等の売上増があったものの、さば缶詰等の売上減により前年同四半期比4百万円減（0.6%減）の7億96百万円となりました。

この結果、全体の売上高は、34億12百万円（前年同四半期比37百万円減、1.1%減）となり、売上総利益率25.3%と前年同四半期比0.1ポイント減となりました。販売費及び一般管理費は8億55百万円（前年同四半期比3百万円増、0.4%増）となり、営業損益につきましては、営業利益8百万円（前年同四半期比16百万円減、65.5%減）となり、経常損益につきましては、経常利益12百万円（前年同四半期比15百万円減、55.3%減）という結果にて終了しました。また親会社株主に帰属する四半期純損益につきましては、親会社株主に帰属する四半期純利益9百万円（前年同四半期比10百万円減、51.1%減）となりました。

品目別販売及び仕入実績の状況

当社グループの事業は単一グループであり、当第3四半期連結累計期間の販売及び仕入実績をセグメントごと及び事業部門ごとに示すことができないため、品目別に示すと、次のとおりであります。

販売実績

品目別	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)			主要商品
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	前年同四半期比	
油脂・乳製品	487,587	14.1	517,349	15.2	6.1%増	マーガリン・ベに花油・えごま油・オリーブ油・ココナッツオイル・菜種油・原材料用サラダ油・ごま油
調味料	1,079,837	31.3	1,055,434	30.9	2.3%減	醤油・味噌・砂糖・塩・酢・カレー・シチュー・マヨネーズ・ドレッシング・液体だし・顆粒だし・醗酵調味料・蜂蜜
嗜好品・飲料	603,988	17.5	593,665	17.4	1.7%減	菓子・野菜果汁飲料・お茶・ドライフルーツ・五穀茶・発酵飲料・ナッツ類・メイシーシリーズ(菓子)
乾物・雑穀	242,034	7.0	226,492	6.6	6.4%減	小麦粉・パン粉・米・黒米・雑穀・鰹節・昆布・ひじき・蓮根粉・ハトムギ粒・餅きび・押麦・キヌア・切干大根・チアシード・炒り胡麻・もち麦・味付のり・干し桜えび・タピオカ粉末
副食品	801,539	23.2	796,950	23.4	0.6%減	ジャム・スープ・レトルト食品・麺類・缶詰・熟成発酵黒にんにく・パンケーキ粉・らっきょう甘酢漬・シリアル食品・みそ汁・お節お重商品・炊き込みごはんの素・五目ちらし寿司の素・かき揚げ(冷凍)・コンビーフ・ビーナッツスプレッド・蒲鉾
栄養補助食品	136,192	4.0	131,230	3.8	3.6%減	青汁・キダチアロエ・梅エキス・ミドリムシ・ハトムギ酵素・乳酸菌・天茶エキス・コラーゲン・碇石茶・生姜粉末・板藍根・ルイボス茶・ルテイン・モリンガ(ハーブ系青汁)・くま笹エキス
その他	99,218	2.9	91,701	2.7	7.6%減	トイレタリー・機械器具・化粧品・虫よけスプレーなど
合計	3,450,397	100.0	3,412,825	100.0	1.1%減	-

上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

仕入実績

品目別	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)		
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	前年同四半期比
油脂・乳製品	344,454	13.5	401,097	15.5	16.4%増
調味料	814,966	31.9	791,692	30.7	2.9%減
嗜好品・飲料	471,362	18.4	483,730	18.7	2.6%増
乾物・雑穀	201,395	7.9	188,641	7.3	6.3%減
副食品	542,354	21.2	541,185	21.0	0.2%減
栄養補助食品	93,959	3.7	92,472	3.6	1.6%減
その他	87,851	3.4	82,195	3.2	6.4%減
合計	2,556,345	100.0	2,581,016	100.0	1.0%増

上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## (2) 財政状態の分析

### 資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて1億9百万円の増加となりました。この主な要因は、「現金及び預金」の1億27百万円減少があったものの、「受取手形及び売掛金」の1億69百万円増加及び「商品及び製品」の52百万円増加などによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて9百万円の増加となりました。この主な要因は、「有形固定資産その他」の5百万円増加及び「無形固定資産その他」の2百万円増加などによるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて1億19百万円増加し、30億13百万円となりました。

#### (負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて1億85百万円の増加となりました。この主な要因は、「賞与引当金」の14百万円減少などがあったものの、「支払手形及び買掛金」の2億4百万円増加などによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比べて70百万円の減少となりました。この主な要因は、「長期借入金」の68百万円減少及び「リース債務」の3百万円減少などによるものであります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて1億14百万円増加し、20億8百万円となりました。

#### (純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて4百万円の増加となりました。この主な要因は、「利益剰余金」の2百万円増加(親会社株主に帰属する四半期純利益9百万円の計上及び配当金の総額6百万円)などによるものであります。

### キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、営業活動の結果13百万円、投資活動の結果27百万円及び財務活動の結果85百万円を使用し、当第3四半期連結会計期間末には9億71百万円(前年同四半期比1億59百万円減)となりました。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動に係るキャッシュ・フローは、仕入債務の増加額2億7百万円などがあったものの、売上債権の増加額1億69百万円及びたな卸資産の増加額52百万円などにより、使用した資金は13百万円(前年同四半期は19百万円の獲得)となりました。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に係るキャッシュ・フローは、保険積立金の解約による収入11百万円などがあったものの、有形固定資産の取得による支出21百万円及び保険積立金の積立による支出13百万円などにより、使用した資金は27百万円(前年同四半期比0百万円増)となりました。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動に係るキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入50百万円があったものの、長期借入金の返済による支出1億20百万円及びリース債務の返済による支出8百万円などにより、使用した資金は85百万円(前年同四半期は39百万円の獲得)となりました。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、24百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## 3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,000,000
計	2,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	705,500	705,500	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	705,500	705,500	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日		705,500		920,465		32,130

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6)【議決権の状況】  
【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 699,200	6,992	-
単元未満株式	普通株式 600	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	705,500	-	-
総株主の議決権	-	6,992	-

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄には証券保管振替機構名義の株式が400株(議決権4個)含まれております。  
2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式15株が含まれております。

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数(株)	他人名義 所有株式数(株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
株式会社 創健社	横浜市神奈川区片倉二丁目 37番11号	5,700	-	5,700	0.80
計		5,700	-	5,700	0.80

(注) 上表は、単元未満株式15株を除いております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人保森会計事務所による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,332,632	1,204,867
受取手形及び売掛金	762,385	931,971
商品及び製品	244,982	297,185
仕掛品	134	64
原材料及び貯蔵品	27,186	27,141
その他	19,299	33,864
貸倒引当金	1,953	471
流動資産合計	2,384,666	2,494,623
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	301,450	305,233
減価償却累計額	245,439	249,035
建物及び構築物(純額)	56,010	56,197
土地	88,371	88,371
リース資産	55,682	60,878
減価償却累計額	19,718	28,511
リース資産(純額)	35,963	32,366
建設仮勘定	306	1,054
その他	179,787	190,218
減価償却累計額	156,978	162,031
その他(純額)	22,809	28,186
有形固定資産合計	203,461	206,176
無形固定資産		
その他	7,061	10,028
無形固定資産合計	7,061	10,028
投資その他の資産		
投資有価証券	77,505	80,224
保険積立金	188,756	190,675
その他	34,373	33,422
貸倒引当金	1,803	1,679
投資その他の資産合計	298,831	302,643
固定資産合計	509,355	518,848
資産合計	2,894,022	3,013,471

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	554,943	759,796
短期借入金	452,955	451,344
リース債務	10,283	9,635
未払法人税等	15,443	3,495
賞与引当金	19,533	4,713
その他	92,468	101,907
流動負債合計	1,145,628	1,330,891
固定負債		
長期借入金	389,948	321,100
リース債務	28,239	24,364
繰延税金負債	1,758	2,582
役員退職慰労引当金	102,600	105,500
退職給付に係る負債	183,920	180,779
その他	41,356	42,842
固定負債合計	747,823	677,168
負債合計	1,893,451	2,008,060
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	920,465	920,465
資本剰余金	45,965	45,965
利益剰余金	41,188	44,134
自己株式	11,091	11,091
株主資本合計	996,527	999,473
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,043	5,937
その他の包括利益累計額合計	4,043	5,937
純資産合計	1,000,570	1,005,411
負債純資産合計	2,894,022	3,013,471

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	3,450,397	3,412,825
売上原価	2,572,304	2,547,986
売上総利益	878,092	864,838
販売費及び一般管理費	852,254	855,930
営業利益	25,838	8,908
営業外収益		
受取利息	66	63
受取配当金	1,658	1,872
仕入割引	2,239	2,465
貸倒引当金戻入額	49	1,606
破損商品等賠償金	569	184
その他	1,395	1,256
営業外収益合計	5,978	7,448
営業外費用		
支払利息	3,324	3,627
その他	0	1
営業外費用合計	3,324	3,628
経常利益	28,492	12,728
特別利益		
固定資産売却益	4	-
保険解約返戻金	346	589
受取保険金	1,893	-
特別利益合計	2,244	589
特別損失		
固定資産除却損	0	0
保険解約損	108	1,259
特別損失合計	108	1,259
税金等調整前四半期純利益	30,628	12,058
法人税、住民税及び事業税	10,298	2,114
法人税等合計	10,298	2,114
四半期純利益	20,329	9,943
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	20,329	9,943

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	20,329	9,943
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12,386	1,894
その他の包括利益合計	12,386	1,894
四半期包括利益	7,943	11,838
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,943	11,838
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	30,628	12,058
減価償却費	17,160	20,312
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	6,700	2,900
賞与引当金の増減額(は減少)	869	14,820
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,429	1,606
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	8,728	3,141
受取利息及び受取配当金	1,697	1,921
仕入割引	2,239	2,465
支払利息	3,324	3,627
受取保険金	1,893	-
固定資産除却損	0	0
保険解約損益(は益)	238	670
固定資産売却損益(は益)	4	-
売上債権の増減額(は増加)	313,192	169,585
破産更生債権等の増減額(は増加)	1,490	-
たな卸資産の増減額(は増加)	4,277	52,088
差入保証金の増減額(は増加)	5,972	15
仕入債務の増減額(は減少)	269,995	207,317
未払消費税等の増減額(は減少)	4,759	9,426
その他	5,307	12,262
小計	28,224	4,079
利息及び配当金の受取額	1,439	1,630
利息の支払額	3,165	3,372
保険金の受取額	1,893	-
法人税等の支払額	8,898	16,059
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>19,493</b>	<b>13,722</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	234,350	234,350
定期預金の払戻による収入	234,800	234,800
有形固定資産の取得による支出	18,634	21,962
有形固定資産の売却による収入	4	-
無形固定資産の取得による支出	1,804	4,305
貸付けによる支出	300	-
貸付金の回収による収入	380	454
保険積立金の積立による支出	13,741	13,617
保険積立金の解約による収入	6,243	11,027
差入保証金の差入による支出	19	39
差入保証金の回収による収入	15	16
その他	16	-
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>27,424</b>	<b>27,976</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	50,000	-
長期借入れによる収入	240,000	50,000
長期借入金の返済による支出	146,832	120,459
セール・アンド・リースバックによる収入	10,800	-
リース債務の返済による支出	7,005	8,210
配当金の支払額	6,971	6,946
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>39,990</b>	<b>85,615</b>
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	32,059	127,315
現金及び現金同等物の期首残高	1,098,921	1,099,032
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,130,981	971,717

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
荷造運送・保管費	234,851千円	248,370千円
給料手当及び賞与	229,324	220,831
研究開発費	21,677	24,007
退職給付費用	14,404	14,650
役員退職慰労引当金繰入額	6,700	7,100
賞与引当金繰入額	8,909	4,513

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
現金及び預金勘定	1,364,131千円	1,204,867千円
預入期間が3か月を超える定期預金	233,150	233,150
現金及び現金同等物	1,130,981	971,717

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

配当金の支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	6,997	10	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

配当金の支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	6,997	10	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

当社グループは、健康自然食品の卸売業として単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

当社グループは、健康自然食品の卸売業として単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	29円05銭	14円21銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	20,329	9,943
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(千円)	20,329	9,943
普通株式の期中平均株式数(株)	699,785	699,785

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月10日

株式会社創健社

取締役会 御中

監査法人 保森会計事務所

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 若林 正和 印

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 山崎 貴史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社創健社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社創健社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。